

❁ ❁ **第2章** ❁ ❁

**高齢者の現状と将来推計**

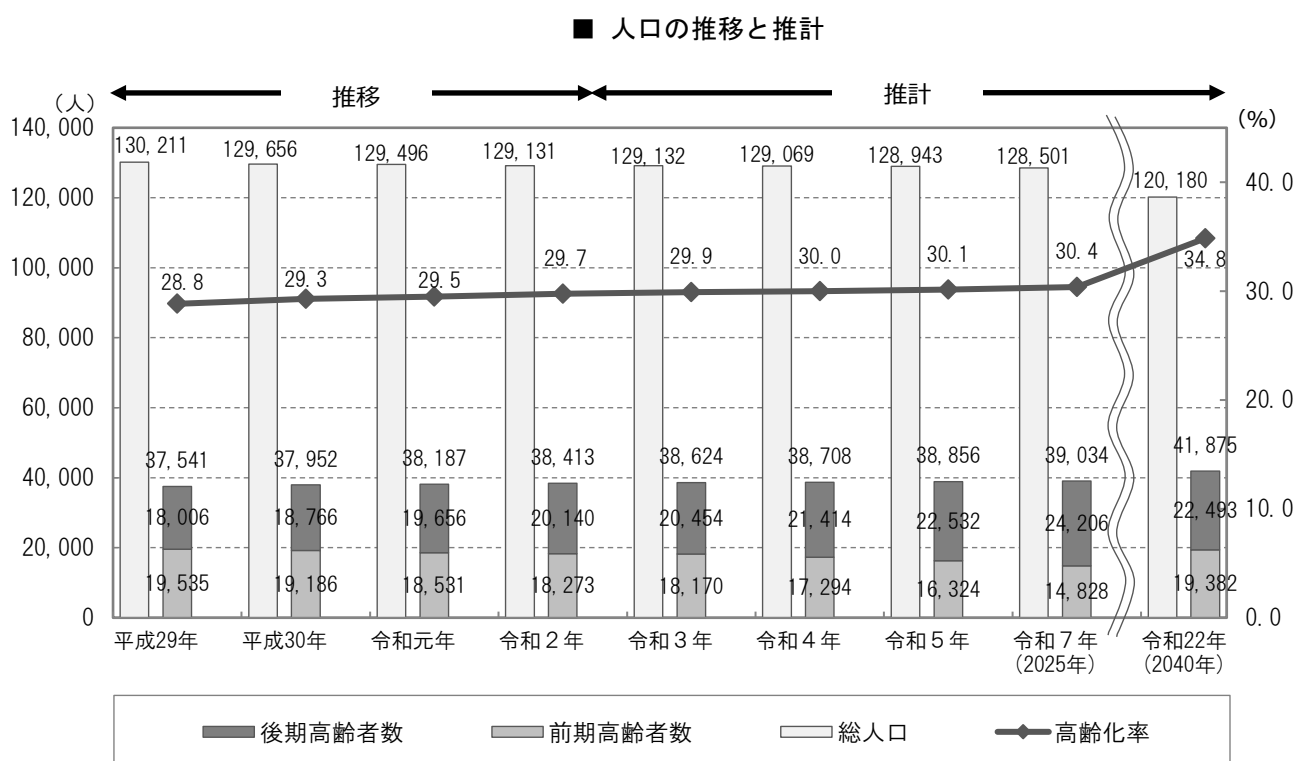


## 第2章 高齢者の現状と将来推計

### 1 人口の推移と将来推計

#### (1) 総人口および高齢者人口

本市の総人口は、令和2年10月1日現在で129,131人、65歳以上の高齢者人口は38,413人となっています。総人口は2040年まで年々減少しますが、65歳以上の高齢者人口や高齢化率はこれまでと比べてゆるやかな増加を保つと推計されています。



資料：「連区別・年齢(各歳)別・男女別人口一覧表」(各年10月1日現在)  
 推計値は本市の住民基本台帳の人口実績をもとにコーホート変化率<sup>※3</sup>を用いて算出し、  
 第6次瀬戸市総合計画2040年の人口推計に合わせ補正

※3 コーホート変化率：過去における人口実績の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法。ここでいう「コーホート」とは、同じ年(または同じ期間)に生まれた人々の集団のことを指す。



前期高齢者人口と後期高齢者人口をみると、令和2年10月1日現在の前期高齢者人口は18,273人、後期高齢者人口は20,140人となっています。平成30年では、前期高齢者人口が後期高齢者人口を上回っていたものの、令和元年では後期高齢者人口が増加し、前期高齢者人口を上回っています。

今後、前期高齢者人口は減少し、2025年には14,828人になるものの、2040年には19,382人に増加すると推計されています。一方、後期高齢者人口は2025年には24,206人まで増加しますが、2040年には22,493人へ減少すると推計されています。

■ 人口推移と推計（前期高齢者人口・後期高齢者人口比率）

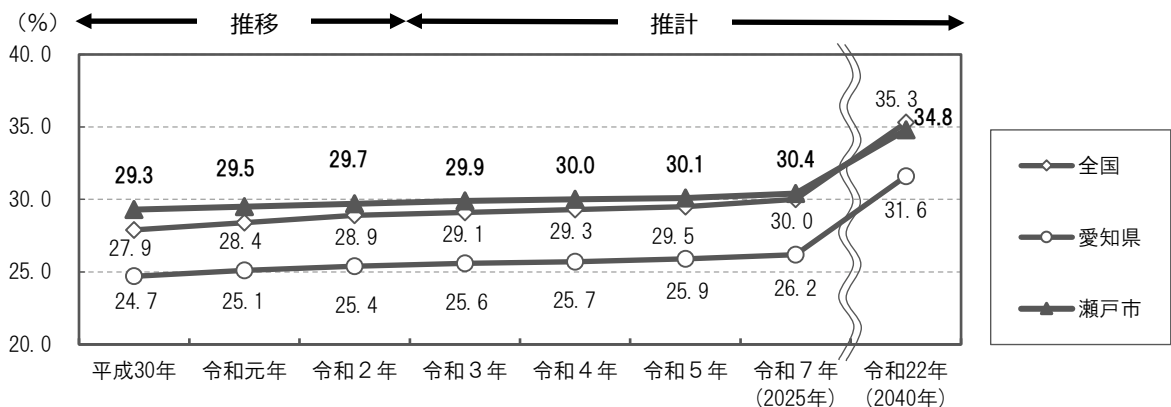
区分	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和7年 (2025年)	令和22年 (2040年)
総人口(人)	129,656	129,496	129,131	129,132	129,069	128,943	128,501	120,180
高齢者人口(人) (65歳以上)	37,952	38,187	38,413	38,624	38,708	38,856	39,034	41,875
高齢化率(%)	29.3	29.5	29.7	29.9	30.0	30.1	30.4	34.8
前期高齢者人口(人) (65~74歳)	19,186	18,531	18,273	18,170	17,294	16,324	14,828	19,382
比率(%)	50.6	48.5	47.6	47.0	44.7	42.0	38.0	46.3
後期高齢者人口(人) (75歳以上)	18,766	19,656	20,140	20,454	21,414	22,532	24,206	22,493
比率(%)	49.4	51.5	52.4	53.0	55.3	58.0	62.0	53.7

資料:「連区別・年齢(各歳)別・男女別人口一覧表」(各年10月1日現在)

本市の高齢化率の推移を全国・愛知県それぞれと比較すると、令和2年まで全国・愛知県より高い割合となっています。

今後、2025年までは全国・愛知県を上回る値で増加しますが、2040年には全国の高齢化率を下回る見込みです。

■ 高齢化率の推移と推計 全国・県との比較



資料: 全国・愛知県は「介護保険事業状況報告」、「地域包括ケア「見える化」システムによる推計値」  
瀬戸市は「連区別・年齢(各歳)別・男女別人口一覧表」(各年10月1日現在)

## (2) 高齢者の世帯

本市の65歳以上の高齢者を含む世帯数は、平成27年には23,042世帯となり、平成7年の約2倍、高齢者単身世帯は約3倍、高齢者のみの夫婦世帯は約4倍に増加しています。

### ■ 世帯数の推移

区 分	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
総 世 帯 (世帯)	42,974	46,293	48,361	50,289	50,327
65歳以上の高齢者を含む世帯数 (世帯)	11,790	14,337	16,977	20,275	23,042
高齢者単身世帯数 (世帯)	1,888	2,615	3,188	4,369	5,336
比率 (%)	16.0	18.2	18.8	21.5	23.2
高齢者のみの夫婦世帯数 (世帯)	1,790	2,708	4,970	5,088	7,744
比率 (%)	15.2	18.9	29.3	25.1	33.6
その他同居世帯数 (世帯)	8,112	9,014	8,819	10,818	9,962
比率 (%)	68.8	62.9	51.9	53.4	43.2

資料:「国勢調査」(5年に一度実施)

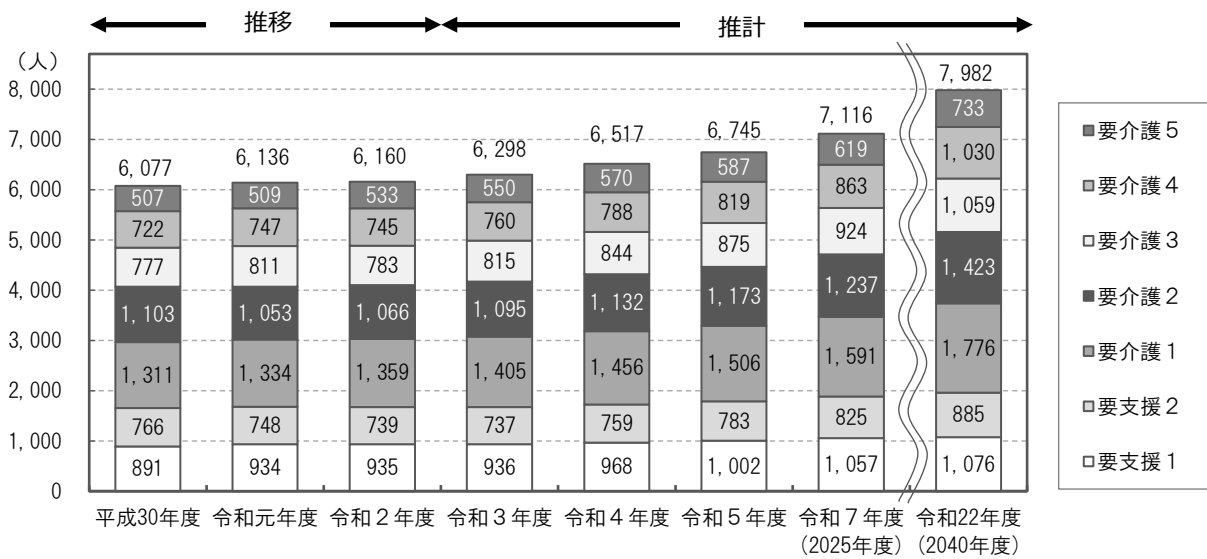


### (3) 要介護等認定者数

本市の要介護等認定者数の推移をみると微増傾向にあり、令和5年には6,745人、2025年には7,116人になる見込みです。

要介護度別にみると、令和2年では要介護1が1,359人と最も多く、次いで要介護2が1,066人となっており、2040年の推計値においても、要介護1が最も多く、次いで要介護2が多くなると推計されています。

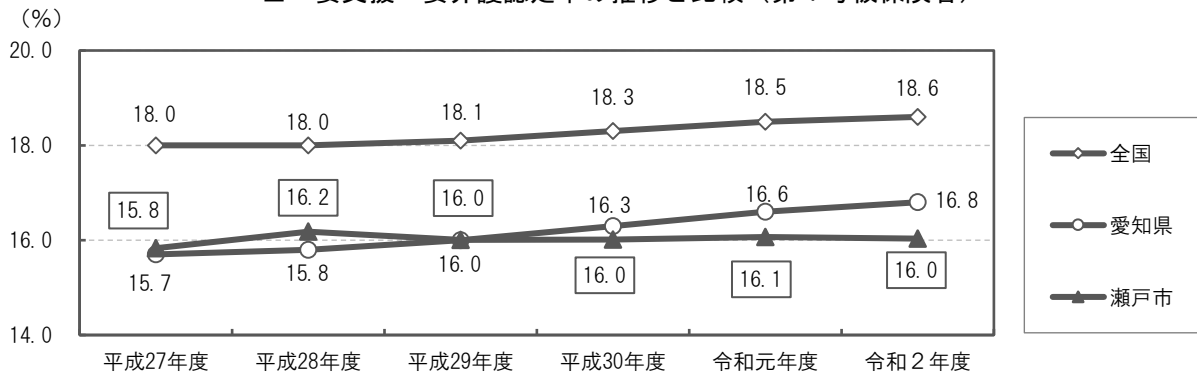
■ 要介護等認定者数の推移と推計（第1号被保険者）



資料:実績値は「介護保険事業状況報告」(各年9月末時点 ※住所特例対象者を含む)  
推計値は「地域包括ケア「見える化」システムによる推計」

本市の要支援・要介護認定率の推移をみると、平成27年以降16.0%前後で推移し、令和2年には16.0%となっています。また、平成30年以降、全国・愛知県に比べ低い割合で推移しています。

■ 要支援・要介護認定率の推移と比較（第1号被保険者）

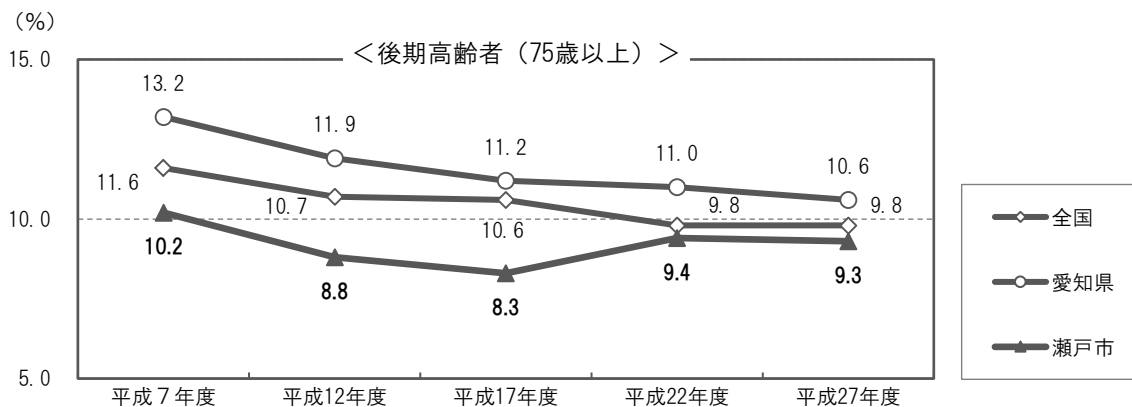
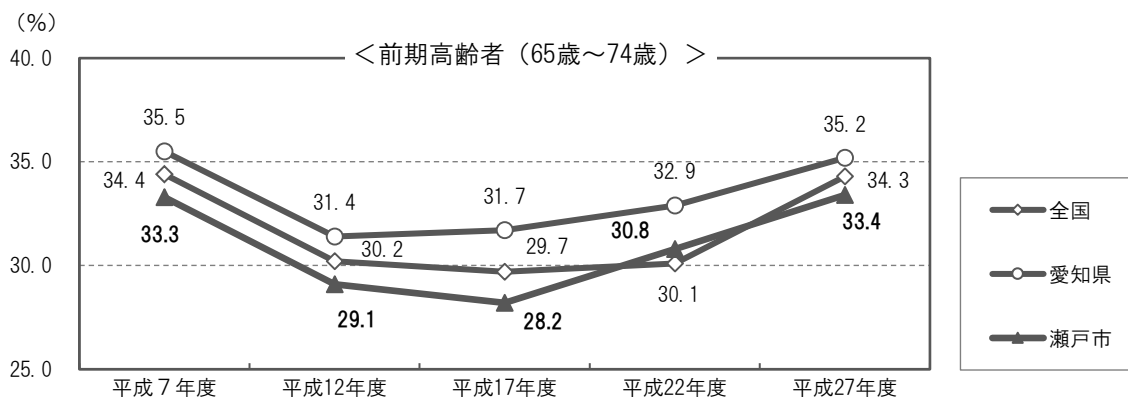
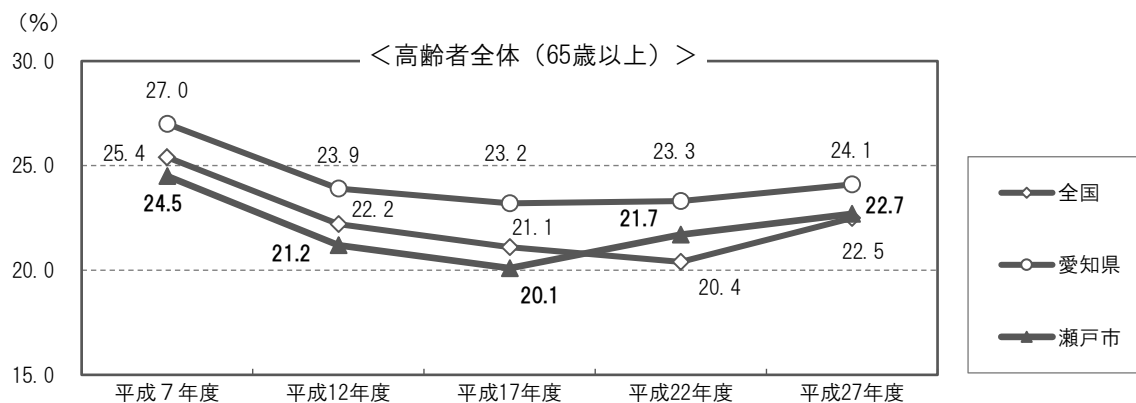


資料:瀬戸市は「介護保険事業状況報告」(各年9月末時点)および「連区別・年齢(各歳)別・男女別人口一覧表」(各年10月1日現在)をもとに算出  
全国、愛知県は「地域包括ケア「見える化」システムより」(各年9月末時点)

### (4) 高齢者の就業率

高齢者全体の就業率をみると、ゆるやかに上昇しています。本市の平成27年の就業率は高齢者全体（65歳以上）では全国を上回っていますが、前期高齢者（65歳～74歳）、後期高齢者（75歳以上）ではいずれも全国・愛知県を下回っています。

■ 高齢者の就業率



資料:「国勢調査」(5年に一度実施)



## 2 日常生活圏域の現状と将来推計

### (1) 日常生活圏域の設定状況

日常生活圏域とは、平成17年度の介護保険法改正により各自治体が策定する介護保険事業計画において、住民が日常生活を営んでいる地域を、地理的条件をはじめ、地域の人口、コミュニティの状況、交通事情等の社会的な条件、介護給付等対象サービスを提供するための施設整備の状況等を総合的に勘案して定めることとされています。これを踏まえ、本市では、5つの日常生活圏域を設定しています。

日常生活圏域	対象となる連区等
北部圏域	道泉・深川・水野・西陵
東部圏域	古瀬戸・東明・品野（品野・下品野）
中部圏域	祖母懐・陶原・長根
西部圏域	效範・水南
南部圏域	山口・菱野・本地・新郷・原山台・萩山台・八幡台

■ 本市の日常生活圏域



## (2) 日常生活圏域の現状と将来推計

### ① 市全域

令和元年度に実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果を、第7期計画策定時の調査（平成28年度調査）結果と比較しました。なお、調査方法や対象者、高齢者像の分類については、資料編136頁「8 アンケート調査概要」をご覧ください。

#### ■介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

指標等項目	令和元年度 数値	平成28年度 数値	指標等項目	令和元年度 数値	平成28年度 数値
<b>1 高齢者像からみた地域分析</b>					
元気高齢者	3.5%(↓)	5.4%	虚弱リスク	11.3%(↓)	13.6%
一般高齢者 (旧一次予防事業対象者)	24.9%(↓)	29.4%	運動器の機能低下リスク	19.3%(↓)	19.5%
介護予防事業対象者	69.8%(-)	-	低栄養リスク	1.4%(↓)	1.8%
生活支援事業対象者	43.2%(↓)	50.9%	口腔機能低下リスク	24.7%(↓)	25.4%
老研指標総合評価	15.3%(↓)	17.5%	閉じこもりリスク	14.6%(↓)	17.6%
IADL低下	8.0%(↓)	9.7%	物忘れリスク	42.0%(↓)	46.3%
知的能動性低下	17.6%(↑)	15.6%	うつ傾向リスク	41.0%(↓)	42.7%
社会的役割低下	36.6%(↓)	37.5%	転倒リスク	32.3%(↓)	33.3%
<b>2 地域での活動</b>					
趣味がある者	69.3%(↓)	69.6%	スポーツ関係のグループや クラブ参加者	20.6%(↑)	20.5%
生きがいがある者	54.1%(↑)	53.9%	趣味関係のグループ参加者	25.2%(↓)	29.3%
地域活動への参加意向	55.9%(-)	-	学習・教養サークル参加者	8.6%(↓)	9.5%
地域活動(企画・運営)への 参加意向	34.4%(-)	-	介護予防のための 通いの場参加者	8.2%(-)	-
友人と交流する頻度が低い者	16.5%(↑)	16.0%	老人クラブ参加者	5.2%(↓)	7.2%
孤食者	7.6%(↑)	6.7%	町内会・自治会参加者	20.5%(↓)	22.6%
ボランティア参加者	9.9%(↓)	11.2%	収入のある仕事従事者	16.7%(↓)	19.5%
<b>3 健康感や幸福感</b>					
主観的健康感が良い者	74.4%(-)	-	心配事や愚痴を聞いて くれる人がいない者	5.9%(↑)	5.8%
幸福感がある者(8点以上)	42.3%(↓)	44.0%	看病や世話をしてくれる人 がいない者	8.2%(↑)	7.4%
<b>4 外出の状況</b>					
外出手段(徒歩)	51.8%(↑)	50.0%	外出手段(電車)	21.9%(↑)	18.4%
外出手段(自動車) 【自分で運転】	53.9%(↑)	50.6%	外出手段(路線バス)	18.6%(↑)	14.4%
外出手段(自動車) 【人に乗せてもらう】	31.8%(↑)	28.1%	運転免許返納者	12.0%(-)	-
頻度の高い外出の目的 ※割合が高い項目のみを記載。					
外出の目的(一般高齢者)	買い物 (40.3%)		趣味・習い事 (16.1%)		家族・友人との交流 (11.0%)
外出の目的(要支援認定者)	買い物 (36.3%)		通院 (27.8%)		介護サービス (デイサービス等) (13.0%)
外出に際して困っていること ※「特になし」、「無回答」以外で割合の高い2項目を記載。					
困っていること(一般高齢者)	バスなどの本数が少ない・時間が合わない(17.4%) 駅やバス停などまでの距離が遠い(8.7%)				
困っていること(要支援認定者)	移動手段がない・他の人に頼まないと移動できない(30.9%) 病気・体調・身体の障害(24.5%)				

※平成28年度数値のうち、令和元年度調査と判定条件等が異なる項目については「-」で記載しています。





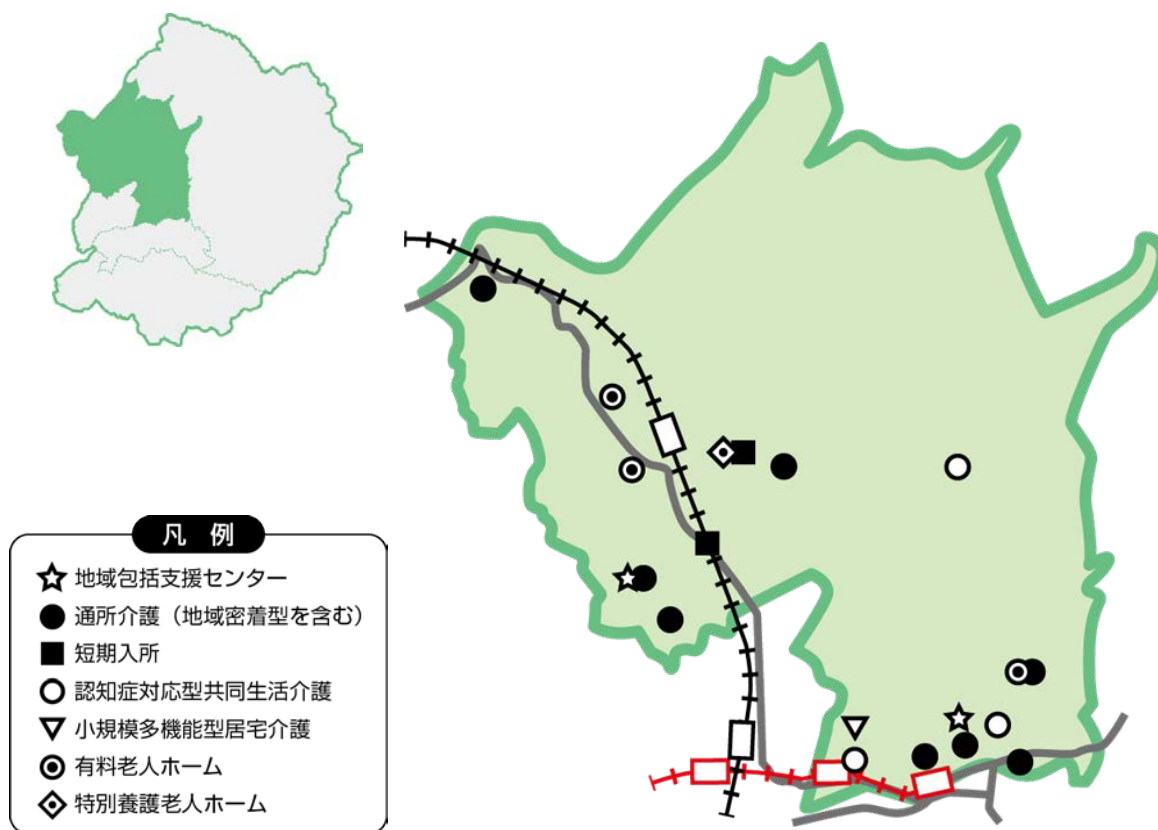
② 北部圏域（道泉・深川・水野・西陵）

■現状（令和2年10月1日現在）

項目	北部圏域		市全域との差	介護サービス事業所数	
人口	23,918人		-	通所介護※1	8か所
65歳以上人口	7,190人		-		
高齢化率	30.1%		+0.4	通所リハビリテーション	0か所
前期高齢者人口	3,422人	47.6%	±0	短期入所※2	2か所
後期高齢者人口	3,768人	52.4%	±0	認知症対応型通所介護	0か所
要介護等認定者数	1,194人		-	認知症対応型 共同生活介護	3か所
要支援1	185人	15.5%	+0.2	小規模多機能型居宅介護	1か所
要支援2	149人	12.5%	+0.4		
要介護1	259人	21.7%	-0.5	地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護	0か所
要介護2	217人	18.2%	+0.8		
要介護3	156人	13.1%	+0.5	特別養護老人ホーム	1か所
要介護4	140人	11.7%	-0.3	サービス付き高齢者向け住宅	0か所
要介護5	88人	7.4%	-1.1	有料老人ホーム	3か所
認定率	16.6%		+0.9	生活支援通所サービス	0か所
事業対象者数	108人		-	地域包括支援センター	2か所

※1 地域密着型を含む

※2 短期入所生活介護と短期入所療養介護の合計



### ■北部圏域の特徴

本市の北西に位置し、4つの連区から成り立っています。愛知環状鉄道中水野駅を有し、名鉄バス路線とコミュニティバス路線が走っています。水野団地やみずの坂などを中心とした住宅団地、工業団地が存在する地域で、地域包括支援センターが2か所あります。

調査結果から、一般高齢者の割合が市平均より高いことや、趣味がある方、地域活動への参加意向がある方、収入のある仕事に従事している方の割合が市平均より低いことがわかります。また、外出手段においては、電車や路線バスを利用される方が多く、バスの本数が少ないことや、移動手段がなく、他の人に頼まないと移動できないと感じている方が多い傾向にあります。

### ■北部圏域 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

指標等項目	数値	市平均との差	指標等項目	数値	市平均との差
<b>1 高齢者像からみた地域分析</b>					
元気高齢者	3.2%	-0.3	虚弱リスク	9.1%	-2.2
一般高齢者(旧一次予防事業対象者)	29.5%	+4.6	運動器の機能低下リスク	18.1%	-1.2
介護予防事業対象者	65.2%	-4.6	低栄養リスク	0.6%	-0.8
生活支援事業対象者	37.1%	-6.1	口腔機能低下リスク	24.6%	-0.1
老研指標総合評価	16.1%	+0.8	閉じこもりリスク	12.6%	-2.0
IADL低下	6.1%	-1.9	物忘れリスク	36.8%	-5.2
知的能動性低下	15.8%	-1.8	うつ傾向リスク	38.3%	-2.7
社会的役割低下	36.3%	-0.3	転倒リスク	31.6%	-0.7
<b>2 地域での活動</b>					
趣味がある者	64.9%	-4.4	スポーツ関係のグループやクラブ参加者	22.2%	+1.6
生きがいがある者	55.3%	+1.2	趣味関係のグループ参加者	22.8%	-2.4
地域活動への参加意向	53.8%	-2.1	学習・教養サークル参加者	9.2%	+0.6
地域活動(企画・運営)への参加意向	30.4%	-4.0	介護予防のための通いの場参加者	7.3%	-0.9
友人と交流する頻度が低い者	14.3%	-2.2	老人クラブ参加者	5.3%	+0.1
孤食者	6.1%	-1.5	町内会・自治会参加者	22.9%	+2.4
ボランティア参加者	9.9%	0.0	収入のある仕事従事者	11.7%	-5.0
<b>3 健康感や幸福感</b>					
主観的健康感が良い者	75.4%	+1.0	心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない者	5.8%	-0.1
幸福感がある者(8点以上)	40.0%	-2.3	看病や世話をしてくれる人がいない者	7.6%	-0.6
<b>4 外出の状況</b>					
外出手段(徒歩)	50.0%	-1.8	外出手段(電車)	24.9%	+3.0
外出手段(自動車) 【自分で運転】	52.9%	-1.0	外出手段(路線バス)	21.1%	+2.5
外出手段(自動車) 【人に乗せてもらう】	32.2%	+0.4	運転免許返納者	13.2%	+1.2
頻度の高い外出の目的 ※割合が高い項目のみを記載。	買い物(37.1%)		趣味・習い事(16.5%)	家族・友人との交流(11.6%)	
外出に際して困っていること ※「特になし」、「無回答」以外で割合の高い2項目を記載。	バスなどの本数が少ない・時間が合わない(19.3%) 移動手段がない・他の人に頼まないと移動できない(12.9%)				



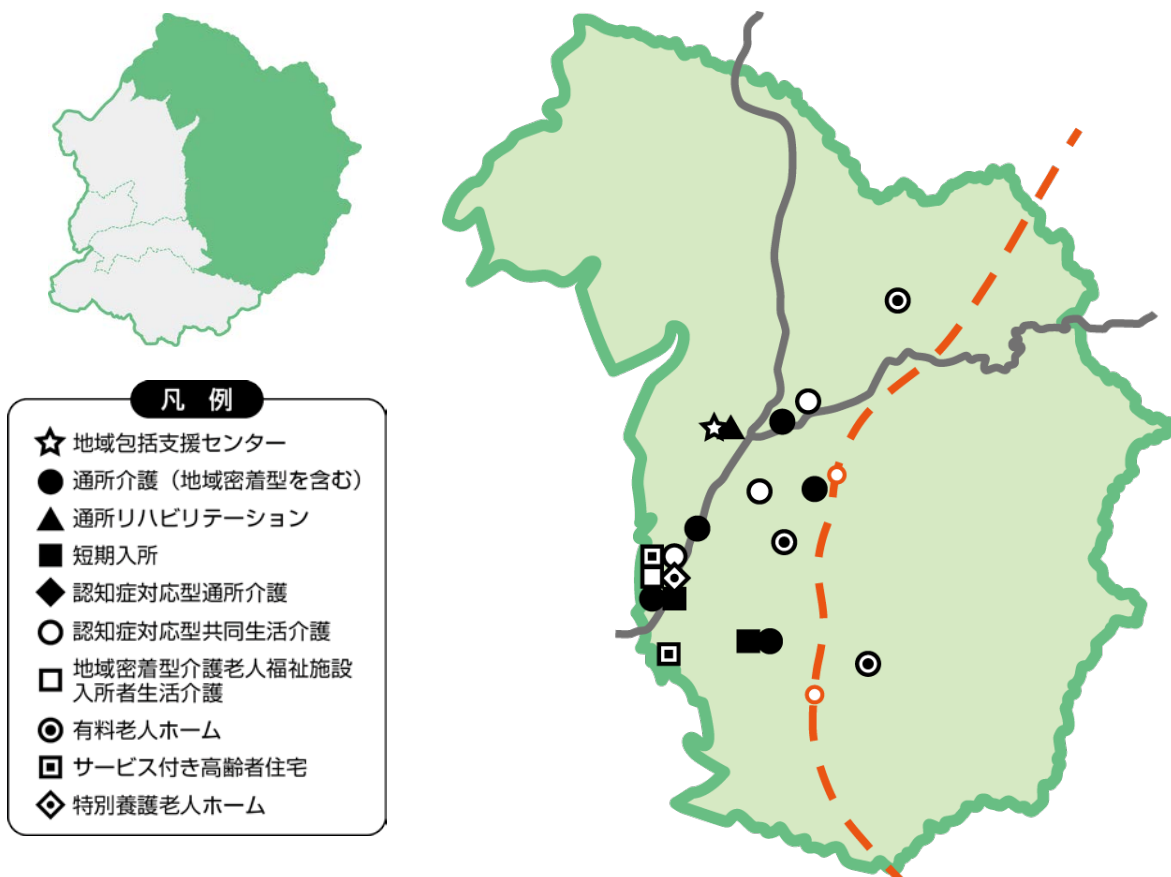
③ 東部圏域（古瀬戸・東明・品野（品野・下品野））

■現状（令和2年10月1日現在）

項目	東部圏域		市全域との差	介護サービス事業所数	
	人数	割合		事業所数	事業所数
人口	17,961 人		-	通所介護※1	5か所
65歳以上人口	6,117 人		-		
高齢化率	34.1%		+4.4	通所リハビリテーション	1か所
前期高齢者人口	2,828 人	46.2%	-1.4	短期入所※2	2か所
後期高齢者人口	3,289 人	53.8%	+1.4	認知症対応型通所介護	0か所
要介護等認定者数	1,001 人		-	認知症対応型 共同生活介護	3か所
要支援1	169 人	16.9%	+1.6		
要支援2	133 人	13.3%	+1.2	小規模多機能型居宅介護	0か所
要介護1	239 人	23.9%	+1.7	地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護	1か所
要介護2	159 人	15.9%	-1.5		
要介護3	109 人	10.9%	-1.7	特別養護老人ホーム	1か所
要介護4	118 人	11.8%	-0.2	サービス付き高齢者向け住宅	2か所
要介護5	74 人	7.4%	-1.1	有料老人ホーム	3か所
認定率	16.4%		+0.7	生活支援通所サービス	0か所
事業対象者数	46 人		-	地域包括支援センター	1か所

※1 地域密着型を含む

※2 短期入所生活介護と短期入所療養介護の合計



### ■東部圏域の特徴

本市の東に位置し、3つの連区から成り立っています。しなのバスセンターを中心としたバス路線網が形成され、名鉄バス路線とコミュニティバス路線および東鉄バス路線が走っています。地域の多くは山林が占めており、高齢化率は5圏域中で最も高くなっています。しなのバスセンター周辺に各種施設等の集積がみられ、介護サービス事業所は5圏域の中でも少ないものの、市内の地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護2か所のうち1か所があります。

調査結果から、閉じこもりリスクに該当した方の割合が市平均より高いことや、地域活動への参加意向がある方の割合が高いことがわかります。また、外出手段においては、自分で自動車を運転される方が多く、運転免許返納者の割合は市の平均より低くなっています。

### ■東部圏域 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

指標等項目	数値	市平均との差	指標等項目	数値	市平均との差
<b>1 高齢者像からみた地域分析</b>					
元気高齢者	3.7%	+0.2	虚弱リスク	13.4%	+2.1
一般高齢者(旧一次予防事業対象者)	22.0%	-2.9	運動器の機能低下リスク	19.7%	+0.4
介護予防事業対象者	72.6%	+2.8	低栄養リスク	0.9%	-0.5
生活支援事業対象者	43.4%	+0.2	口腔機能低下リスク	25.1%	+0.4
老研指標総合評価	15.7%	+0.4	閉じこもりリスク	22.9%	+8.3
IADL低下	10.0%	+2.0	物忘れリスク	41.1%	-0.9
知的能動性低下	20.0%	+2.4	うつ傾向リスク	41.7%	+0.7
社会的役割低下	32.9%	-3.7	転倒リスク	31.4%	-0.9
<b>2 地域での活動</b>					
趣味がある者	70.0%	+0.7	スポーツ関係のグループやクラブ参加者	19.7%	-0.9
生きがいがある者	54.0%	-0.1	趣味関係のグループ参加者	22.2%	-3.0
地域活動への参加意向	58.3%	+2.4	学習・教養サークル参加者	7.4%	-1.2
地域活動(企画・運営)への参加意向	36.3%	+1.9	介護予防のための通いの場参加者	8.3%	+0.1
友人と交流する頻度が低い者	18.6%	+2.1	老人クラブ参加者	8.1%	+2.9
孤食者	10.0%	+2.4	町内会・自治会参加者	25.5%	+5.0
ボランティア参加者	10.1%	+0.2	収入のある仕事従事者	19.7%	+3.0
<b>3 健康感や幸福感</b>					
主観的健康感が良い者	75.5%	+1.1	心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない者	4.6%	-1.3
幸福感がある者(8点以上)	41.1%	-1.2	看病や世話をしてくれる人がいない者	7.4%	-0.8
<b>4 外出の状況</b>					
外出手段(徒歩)	38.9%	-12.9	外出手段(電車)	12.9%	-9.0
外出手段(自動車) 【自分で運転】	58.0%	+4.1	外出手段(路線バス)	24.0%	+5.4
外出手段(自動車) 【人に乗せてもらう】	32.0%	+0.2	運転免許返納者	9.4%	-2.6
頻度の高い外出の目的 ※割合が高い項目のみを記載。	買い物(42.7%)		通院(14.5%)		趣味・習い事(12.5%)
外出に際して困っていること ※「特になし」、「無回答」以外で割合の高い2項目を記載。	バスなどの本数が少ない・時間が合わない(25.7%) 移動手段がない・他の人に頼まないと移動できない(12.3%)				



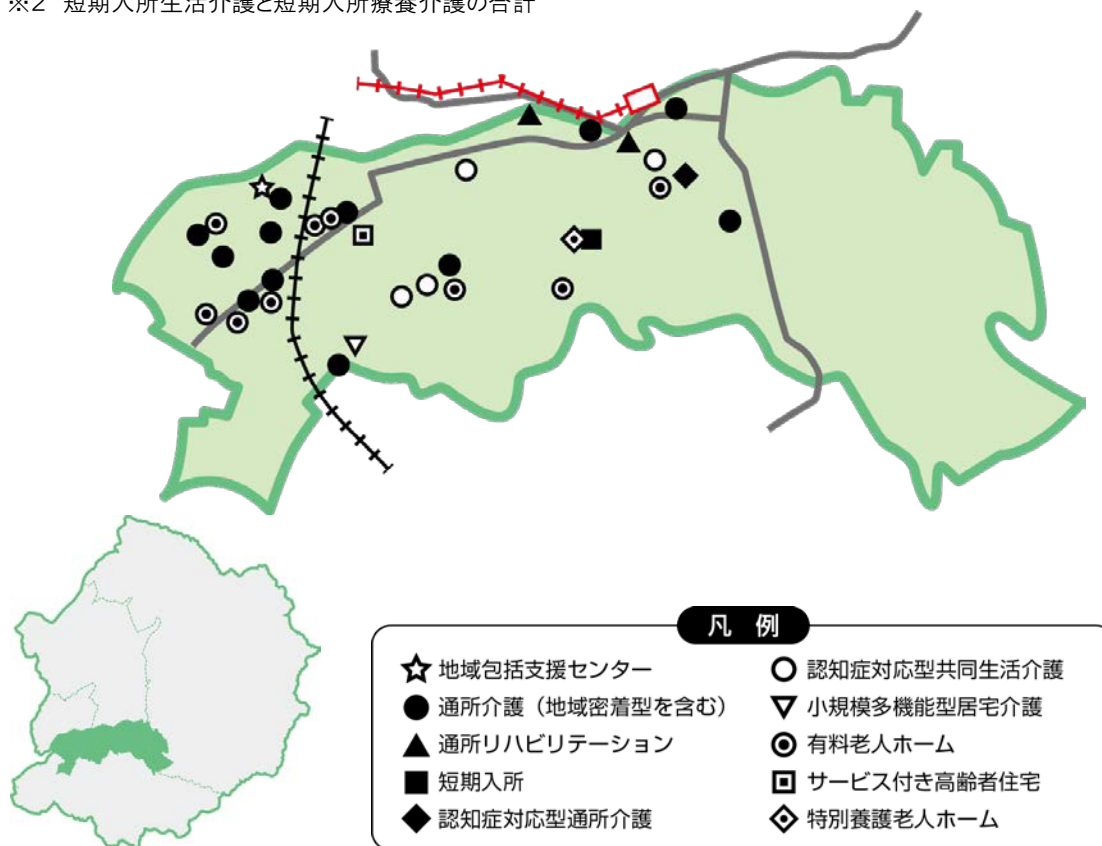
④ 中部圏域（祖母懐・陶原・長根）

■現状（令和2年10月1日現在）

項目	中部圏域		市全域との差	介護サービス事業所数	
	人口	65歳以上人口		通所介護※1	事業所数
人口	19,339人		-	通所介護※1	12か所
65歳以上人口	5,578人		-	通所リハビリテーション	2か所
高齢化率	28.8%		-0.9	短期入所※2	1か所
前期高齢者人口	2,536人	45.5%	-2.1	認知症対応型通所介護	1か所
後期高齢者人口	3,042人	54.5%	+2.1	認知症対応型 共同生活介護	4か所
要介護等認定者数	867人		-	小規模多機能型居宅介護	1か所
要支援1	130人	15.0%	-0.3	地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護	0か所
要支援2	109人	12.6%	+0.5	特別養護老人ホーム	1か所
要介護1	185人	21.3%	-0.9	サービス付き高齢者向け住宅	1か所
要介護2	170人	19.6%	+2.2	有料老人ホーム	9か所
要介護3	106人	12.2%	-0.4	生活支援通所サービス	0か所
要介護4	102人	11.8%	-0.2	地域包括支援センター	1か所
要介護5	65人	7.5%	-1.0		
認定率	15.5%		-0.2		
事業対象者数	110人		-		

※1 地域密着型を含む

※2 短期入所生活介護と短期入所療養介護の合計



### ■中部圏域の特徴

本市の中央に位置し、3つの連区から成り立っています。名鉄バス路線とコミュニティバス路線が比較的多く走っており、尾張瀬戸駅周辺に商業施設が集まっています。介護サービス事業所は5圏域の中でも2番目に多い地域です。

調査結果から、特に運動器の機能低下リスク、うつ傾向リスクに該当する方の割合が市平均より高いことや、地域での活動に参加している方や参加意向のある方の割合が市平均より低いことがわかります。また、外出手段においては、徒歩や電車を利用されている方が多く、バスの本数が少ないことや、駅やバス停などまでの距離が遠いと感じている方が多い傾向にあります。

### ■中部圏域 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

指標等項目	数値	市平均との差	指標等項目	数値	市平均との差
<b>1 高齢者像からみた地域分析</b>					
元気高齢者	2.0%	-1.5	虚弱リスク	11.2%	-0.1
一般高齢者(旧一次予防事業対象者)	23.3%	-1.6	運動器の機能低下リスク	23.3%	+4.0
介護予防事業対象者	72.4%	+2.6	低栄養リスク	0.9%	-0.5
生活支援事業対象者	45.1%	+1.9	口腔機能低下リスク	25.0%	+0.3
老研指標総合評価	15.2%	-0.1	閉じこもりリスク	12.9%	-1.7
IADL低下	8.3%	+0.3	物忘れリスク	45.1%	+3.1
知的能動性低下	17.0%	-0.6	うつ傾向リスク	44.8%	+3.8
社会的役割低下	41.4%	+4.8	転倒リスク	33.3%	+1.0
<b>2 地域での活動</b>					
趣味がある者	67.0%	-2.3	スポーツ関係のグループ やクラブ参加者	19.5%	-1.1
生きがいがある者	54.6%	+0.5	趣味関係のグループ 参加者	25.3%	+0.1
地域活動への参加意向	52.6%	-3.3	学習・教養サークル 参加者	8.6%	±0
地域活動(企画・運営)への 参加意向	33.3%	-1.1	介護予防のための 通いの場参加者	6.6%	-1.6
友人と交流する頻度が低い者	16.7%	+0.2	老人クラブ参加者	3.7%	-1.5
孤食者	7.8%	+0.2	町内会・自治会参加者	16.4%	-4.1
ボランティア参加者	9.7%	-0.2	収入のある仕事従事者	16.3%	-0.4
<b>3 健康感や幸福感</b>					
主観的健康感が良い者	73.6%	-0.8	心配事や愚痴を聞いて くれる人がいない者	8.6%	+2.7
幸福感がある者(8点以上)	44.3%	+2.0	看病や世話をしてくれる人 がいない者	9.8%	+1.6
<b>4 外出の状況</b>					
外出手段(徒歩)	56.0%	+4.2	外出手段(電車)	23.6%	+1.7
外出手段(自動車) 【自分で運転】	52.3%	-1.6	外出手段(路線バス)	13.2%	-5.4
外出手段(自動車) 【人に乗せてもらう】	31.6%	-0.2	運転免許返納者	11.8%	-0.2
頻度の高い外出の目的 ※割合が高い項目のみを記載。	買い物(42.2%)		趣味・習い事(13.0%)	通院(11.0%)	
外出に際して困っていること ※「特になし」、「無回答」以外で割合の高い2項目を記載。	バスなどの本数が少ない・時間が合わない(15.2%) 駅やバス停などまでの距離が遠い(14.4%)				



⑤ 西部圏域（効範・水南）

■現状（令和2年10月1日現在）

項目	西部圏域		市全域との差	介護サービス事業所数	
	人数	割合		事業所名	数
人口	29,002 人		-	通所介護※1	6か所
65歳以上人口	7,602 人		-		
高齢化率	26.2%		-3.5	通所リハビリテーション	1か所
前期高齢者人口	3,705 人	48.7%	+1.1	短期入所※2	1か所
後期高齢者人口	3,897 人	51.3%	-1.1	認知症対応型通所介護	2か所
要介護等認定者数	1,116 人		-	認知症対応型 共同生活介護	2か所
要支援1	180 人	16.1%	+0.8	小規模多機能型居宅介護	1か所
要支援2	115 人	10.3%	-1.8		
要介護1	262 人	23.5%	+1.3	地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護	0か所
要介護2	170 人	15.2%	-2.2		
要介護3	126 人	11.3%	-1.3	特別養護老人ホーム	1か所
要介護4	142 人	12.7%	+0.7	サービス付き高齢者向け住宅	0か所
要介護5	121 人	10.8%	+2.3	有料老人ホーム	6か所
認定率	14.7%		-1.0	生活支援通所サービス	0か所
事業対象者数	113 人		-	地域包括支援センター	1か所

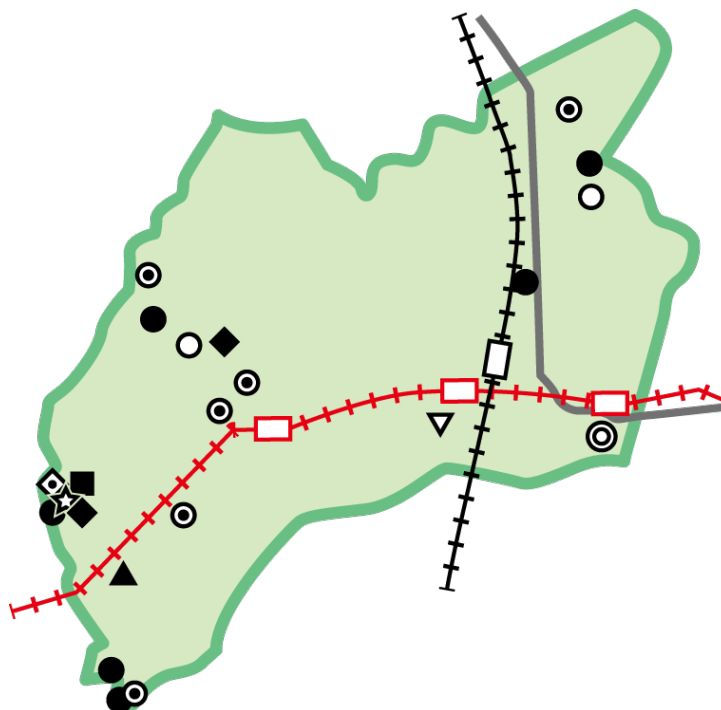
※1 地域密着型を含む

※2 短期入所生活介護と短期入所療養介護の合計



**凡例**

- ☆ 地域包括支援センター
- 通所介護（地域密着型を含む）
- ▲ 通所リハビリテーション
- 短期入所
- ◆ 認知症対応型通所介護
- 認知症対応型共同生
- ▽ 小規模多機能型居宅介護
- ◎ 有料老人ホーム
- ◇ 特別養護老人ホーム
- ◎ 市役所



### ■西部圏域の特徴

本市の西に位置し、2つの連区から成り立っています。名鉄瀬戸線3駅、愛知環状鉄道1駅を有し、新瀬戸駅・瀬戸市駅から各方面に名鉄バス路線やコミュニティバス路線が運行されており、新瀬戸駅・瀬戸市駅周辺には各種施設等の集積がみられます。介護サービス事業所は5圏域の中でも少ない地域です。

調査結果から、特に低栄養リスク、口腔機能低下リスクに該当する方、孤食者の方の割合が市平均より高いことや、趣味がある方や通いの場に参加している方、収入のある仕事に従事している方の割合が市平均より高いことがわかります。また、外出手段においては、徒歩や電車を利用されている方が多く、バスの本数が少ないことや、移動手段がない、駅やバス停などまでの距離が遠いと感じている方が多い傾向にあります。

### ■西部圏域 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

指標等項目	数値	市平均との差	指標等項目	数値	市平均との差
<b>1 高齢者像からみた地域分析</b>					
元気高齢者	3.9%	+0.4	虚弱リスク	10.7%	-0.6
一般高齢者(旧一次予防事業対象者)	27.2%	+2.3	運動器の機能低下リスク	15.2%	-4.1
介護予防事業対象者	67.2%	-2.6	低栄養リスク	3.0%	+1.6
生活支援事業対象者	44.2%	+1.0	口腔機能低下リスク	26.3%	+1.6
老研指標総合評価	14.0%	-1.3	閉じこもりリスク	12.8%	-1.8
IADL低下	6.6%	-1.4	物忘れリスク	42.7%	+0.7
知的能動性低下	18.2%	+0.6	うつ傾向リスク	39.4%	-1.6
社会的役割低下	35.2%	-1.4	転倒リスク	30.7%	-1.6
<b>2 地域での活動</b>					
趣味がある者	70.4%	+1.1	スポーツ関係のグループやクラブ参加者	17.7%	-2.9
生きがいがある者	54.0%	-0.1	趣味関係のグループ参加者	26.1%	+0.9
地域活動への参加意向	56.8%	+0.9	学習・教養サークル参加者	8.1%	-0.5
地域活動(企画・運営)への参加意向	33.5%	-0.9	介護予防のための通いの場参加者	9.3%	+1.1
友人と交流する頻度が低い者	15.2%	-1.3	老人クラブ参加者	2.4%	-2.8
孤食者	8.7%	+1.1	町内会・自治会参加者	13.7%	-6.8
ボランティア参加者	6.9%	-3.0	収入のある仕事従事者	17.7%	+1.0
<b>3 健康感や幸福感</b>					
主観的健康感が良い者	73.5%	-0.9	心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない者	5.7%	-0.2
幸福感がある者(8点以上)	43.9%	+1.6	看病や世話をしてくれる人がいない者	11.3%	+3.1
<b>4 外出の状況</b>					
外出手段(徒歩)	63.3%	+11.5	外出手段(電車)	30.4%	+8.5
外出手段(自動車) 【自分で運転】	51.0%	-2.9	外出手段(路線バス)	14.9%	-3.7
外出手段(自動車) 【人に乗せてもらう】	33.4%	+1.6	運転免許返納者	15.2%	+3.2
頻度の高い外出の目的 ※割合が高い項目のみを記載。	買い物(38.8%)		趣味・習い事(17.6%)		家族・友人との交流(10.0%)
外出に際して困っていること ※「特になし」、「無回答」以外で割合の高い3項目を記載。	バスなどの本数が少ない・時間が合わない(10.7%) 移動手段がない・他の人に頼まないと移動できない(8.1%) 駅やバス停などまでの距離が遠い(8.1%)				



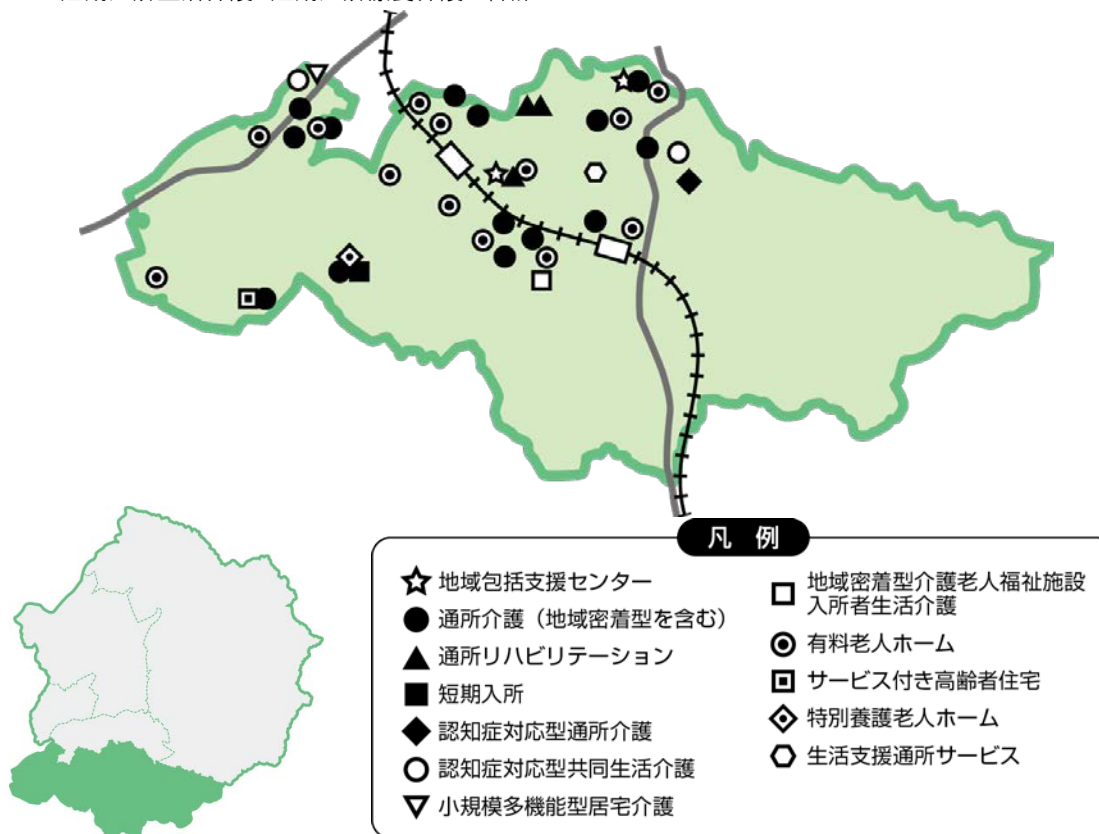
⑥ 南部圏域（山口・菱野・本地・新郷・原山台・萩山台・八幡台）

■現状（令和2年10月1日現在）

項目	南部圏域		市全域との差	介護サービス事業所数	
	人口	65歳以上人口		通所介護※1	施設介護
人口	38,911人		-	14か所	
65歳以上人口	11,926人		-		
高齢化率	30.6%		+0.9	通所リハビリテーション	3か所
前期高齢者人口	5,782人	48.5%	+0.9	短期入所※2	1か所
後期高齢者人口	6,144人	51.5%	-0.9	認知症対応型通所介護	1か所
要介護等認定者数	1,854人		-	認知症対応型共同生活介護	2か所
要支援1	257人	13.9%	-1.4	小規模多機能型居宅介護	1か所
要支援2	226人	12.2%	+0.1	地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護	1か所
要介護1	393人	21.2%	-1.0	特別養護老人ホーム	1か所
要介護2	331人	17.9%	+0.5	サービス付き高齢者向け住宅	1か所
要介護3	266人	14.3%	+1.7	有料老人ホーム	13か所
要介護4	219人	11.8%	-0.2	生活支援通所サービス	1か所
要介護5	162人	8.7%	+0.2	地域包括支援センター	2か所
認定率	15.5%		-0.2		
事業対象者数	186人		-		

※1 地域密着型を含む

※2 短期入所生活介護と短期入所療養介護の合計



### ■南部圏域の高齢者人口の推計

本市の南に位置し、7つの連区から成り立っています。愛知環状鉄道2駅を有し、名鉄バス路線とコミュニティバス路線が5圏域中一番多く走っています。菱野団地に人口が集積しており、高齢化率が高く、高齢者人口も1万人を超える地域です。地域包括支援センターが2か所あり、介護サービス事業所は5圏域の中で1番多く、市内の地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護2か所のうち1か所があります。

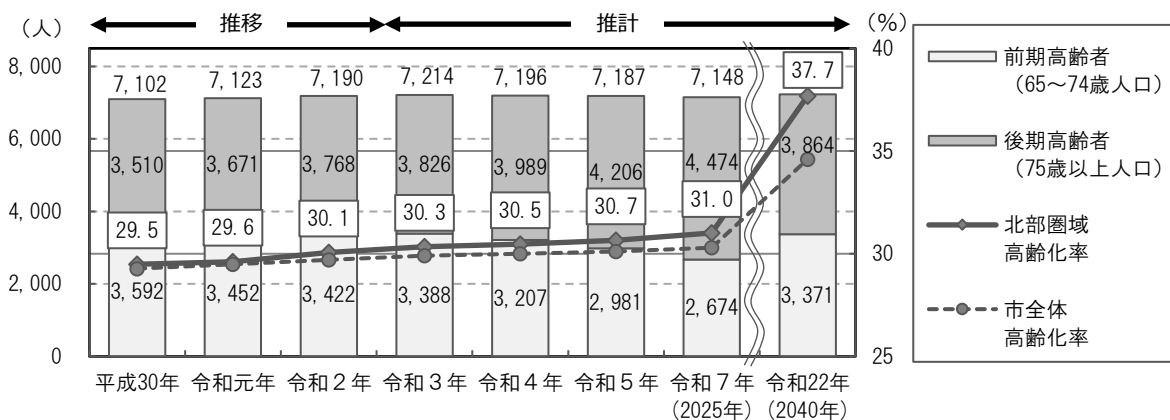
調査結果から、特に物忘れリスク、転倒リスクに該当する方が市平均より高いことや、地域活動に参加されている方の割合が市平均より高く、活動の企画・運営者として参加したい方の割合も市平均より高いことがわかります。また、外出手段においては、自分で自動車を運転される方が多く、運転免許返納者の割合は市平均より低い状況です。

### ■南部圏域 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

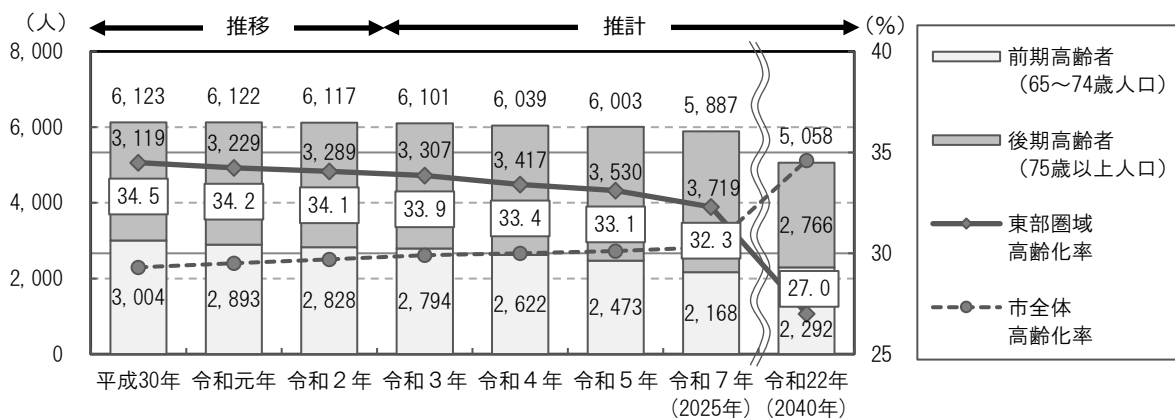
指標等項目	数値	市平均との差	指標等項目	数値	市平均との差
<b>1 高齢者像からみた地域分析</b>					
元気高齢者	4.5%	+1.0	虚弱リスク	12.1%	+0.8
一般高齢者(旧一次予防事業対象者)	22.8%	-2.1	運動器の機能低下リスク	20.0%	+0.7
介護予防事業対象者	71.3%	+1.5	低栄養リスク	1.7%	+0.3
生活支援事業対象者	45.9%	+2.7	口腔機能低下リスク	22.5%	-2.2
老研指標総合評価	15.2%	-0.1	閉じこもりリスク	11.5%	-3.1
IADL低下	9.0%	+1.0	物忘れリスク	44.2%	+2.2
知的能動性低下	17.2%	-0.4	うつ傾向リスク	40.8%	-0.2
社会的役割低下	37.5%	+0.9	転倒リスク	34.1%	+1.8
<b>2 地域での活動</b>					
趣味がある者	74.1%	+4.8	スポーツ関係のグループやクラブ参加者	23.9%	+3.3
生きがいがある者	52.7%	-1.4	趣味関係のグループ参加者	29.6%	+4.4
地域活動への参加意向	58.6%	+2.7	学習・教養サークル参加者	9.9%	+1.3
地域活動(企画・運営)への参加意向	38.6%	+4.2	介護予防のための通いの場参加者	9.6%	+1.4
友人と交流する頻度が低い者	17.5%	+1.0	老人クラブ参加者	6.8%	+1.6
孤食者	5.4%	-2.2	町内会・自治会参加者	23.6%	+3.1
ボランティア参加者	12.6%	+2.7	収入のある仕事従事者	17.7%	+1.0
<b>3 健康感や幸福感</b>					
主観的健康感が良い者	74.1%	-0.3	心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない者	4.8%	-1.1
幸福感がある者(8点以上)	42.3%	±0	看病や世話をしてくれる人がいない者	5.1%	-3.1
<b>4 外出の状況</b>					
外出手段(徒歩)	51.5%	-0.3	外出手段(電車)	18.3%	-3.6
外出手段(自動車) 【自分で運転】	54.9%	+1.0	外出手段(路線バス)	19.4%	+0.8
外出手段(自動車) 【人に乗せてもらう】	29.9%	-1.9	運転免許返納者	10.7%	-1.3
頻度の高い外出の目的 ※割合が高い項目のみを記載。	買い物(44.3%)		趣味・習い事(15.3%)	通院(11.8%)	
外出に際して困っていること ※「特になし」、「無回答」以外で割合の高い2項目を記載。	バスなどの本数が少ない・時間が合わない(18.6%) 移動手段がない・他の人に頼まないと移動できない(12.1%)				

### ⑦ 各圏域の高齢者人口の推計

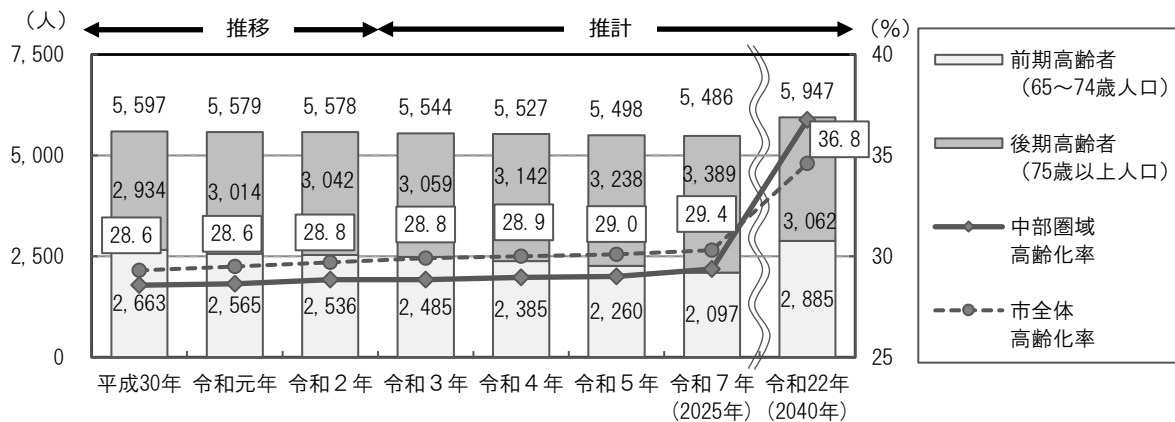
#### ■北部圏域



#### ■東部圏域

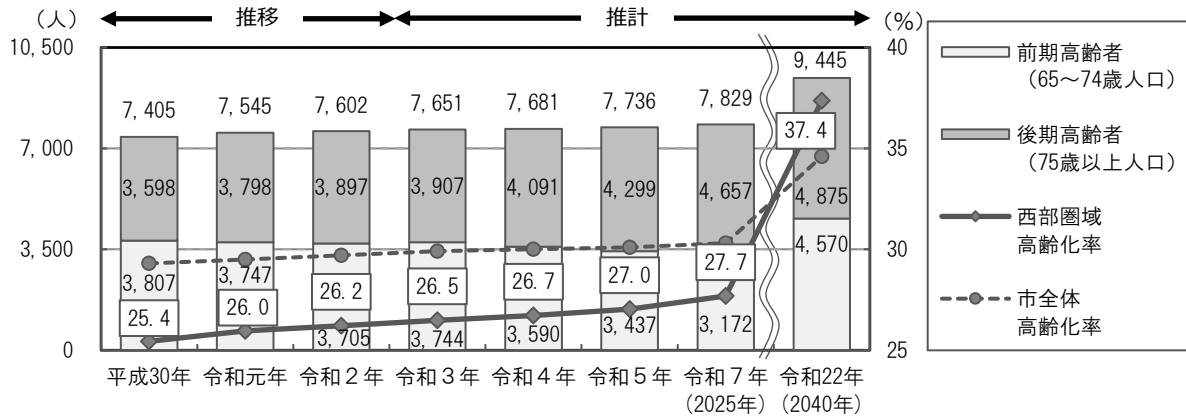


#### ■中部圏域

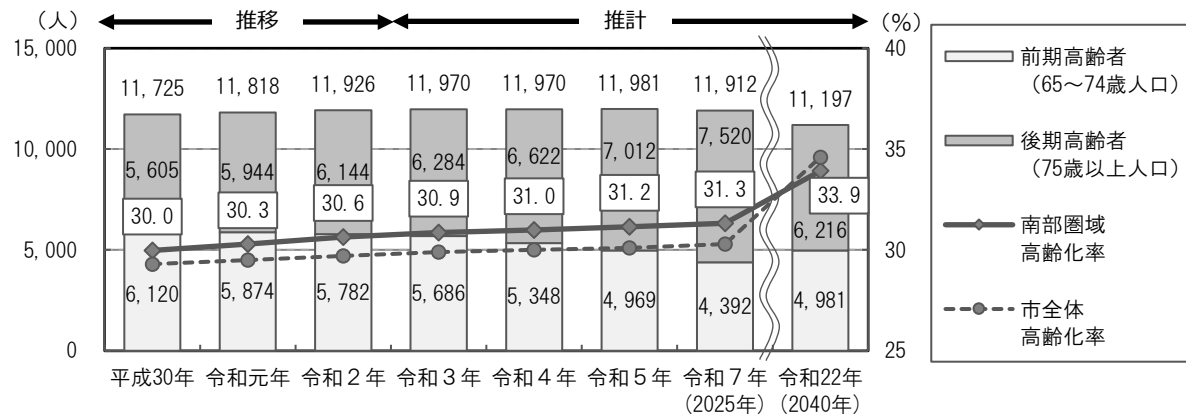




■西部圏域



■南部圏域





### (3) 日常生活圏域の課題

本市では、連区を基本に前述した項目を勘案して日常生活圏域を「5圏域」としました。

日常生活圏域ごとに高齢化や要介護等認定者の状況、アンケート結果等を踏まえ、課題を整理しながら、それぞれの地域にふさわしい介護予防事業や健康づくり事業、見守り・支え合い事業等の充実を図ってきました。また、地域密着型サービス等の施設整備方針につなげるための地域ケア会議を、医療・介護・福祉等の関係機関や、民生委員、地域住民等と連携・協力し、情報を共有しながら開催してきました。

本市では、現在5つの圏域を設定しておりますが、これからの社会的な環境の変化、生活形態の変化を踏まえ、改めて日常生活圏域の範囲を検討する必要があると考えています。

■ 日常生活圏域と地域包括支援センターの位置

